

令和 6 年度 事業報告

令和 6 年 1 月 1 日から令和 6 年 12 月 31 日まで

一般社団法人全日本実業団自転車競技連盟

1. JBCF ロードシリーズ

令和 6 年は回復を期待したが登録者数は昨年と変わらず厳しい一年となった。その中で明るい兆しは 10 代と 50 代以上の登録者数が増えており、次世代を担う選手たちがロードレースを走る場として JBCF を選択している。併せて生涯スポーツとしてロードレースが定着してきていることを示している。また自治体等からの開催要望が増えており、自転車競技を通じて人と地域に貢献する理念が実を結び始めた。初開催の大会は香川県の綾川町ロードレース、千葉県の浦安クリテリウム、愛知県の新城ロードレースの 3 レース。特に公道レースが増えたことは、自転車競技への理解が広がっていると考えております。

(1) J プロツアー

22 チーム①シマノレーシング、②KINAN Racing Team、③Team BRIDGESTONE Cycling、④マトリックスパワータグ、⑤愛三工業レーシングチーム、⑥群馬グリフィンレーシングチーム、⑦弱虫ペダルサイクリングチーム、⑧CIEL BLEU KANOYA、⑨イナーメ信濃山形、⑩アブニールサイクリング山梨、⑪備後しまなみ eNShare、⑫Bellmare Racing Team、⑬稲城 FIETS クラスアクト、⑭京都産業大学、⑮宇都宮ブリッツェン、⑯ヴィクトワール広島、⑰スパークル大分、⑱ヴェロリアン松山、⑲チームサイクラーズスネル、⑳さいたま佐渡サンブレイズ、㉑VC FUKUOKA が加盟しました。

8 ラウンド、15 レースを開催し、初開催は新城ロードレース。衆議院解散総選挙と日程が重複し、石川大会が中止となった。シマノレーシングが年間チーム総合優勝し 2 連覇を達成。個人総合は金子宗平選手（群馬グリフィン）が初の獲得。

(2) J エリートツアー

41 レースの計画であったが、台風、衆議院解散総選挙により 3 レースが中止となり、38 レースが開催された。個人総合優勝はドクターと両立する武井裕選手（TRYCLE.ing）が獲得しました。

(3) J フェミニンツアー

個人総合優勝は鈴木友佳子選手（MIVRO）が獲得しました

(4) J ユースツアー

個人総合優勝は Y1（U17）では大谷正太選手（OUTDOORLIFE Racing）が、Y2（U15）では福地大和選手（OUTDOORLIFE Racing）が獲得しました。

(5) J マスターズツアー

個人総合優勝は昨年僅差で総合 2 位だった中村将也選手（MiNERVA asahi）が獲得しました。

(6) 一般大会

「伊吹山ドライブウェイヒルクライム」、「きらら浜クリテリウム」、「椿ヶ鼻ヒルクラム」、「大星山ヒルクラム」、「セオフェス」等を実施。

※ 各大会の日程は「2024JBCF Road & Track Series レース開催スケジュール」参照

2. J B C F トラックシリーズ

- ① 6 月 30 日「第 58 回 JBCF 西日本トラック」（和歌山競輪場）
- ② 7 月 20-21 日「第 55 回 JBCF 東日本トラック」（西武園自転車競技場）
- ③ 8 月 24-25 日「第 55 回 JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ」（松本市美鈴湖自転車競技場）

上記 3 大会を開催した。②は西武園競輪場で東京都自転車競技連盟の協力で開催

3. 加盟登録状況

当年度の加盟登録状況は 279 チーム、1,965 選手。前年比はチーム 100%、選手 100%となりましたが、10 代の登録者が増えている明るい兆しがあります。今後は開催地と連携し、より魅力ある大会運営を実現していくことで、当面の目標である「加盟登録者 3,000 名」を実現したいと考えております。

3 レース中止となり大会参加者数は延べ 8,807 人となりました。中止 3 レースが錯塩と同数の参加者数と仮定すると約 4%増となります。

4. 競輪公益資金補助事業

競輪の補助金を受けて、令和 6 年度の下記事業を行いました。10 月開催の石川大会については衆議院解散総選挙の日程が重複し中止となりました。本事業の実施により、全国組織の連盟として、幅広い競技者に向けて日本各地で大会を開催し、日頃の修練の成果を示す場を提供することで競技力の向上を目指し、一般社会の自転車競技に対する正しい知識と理解を深め、自転車競技の進歩を即し普及促進を図るとともに、自転車競技を通じて人と地域に貢献する基本理念の

もと、人流を作り開催地に微力ながら経済的にも貢献できたと考えております。また、競技団体として、安全安心な大会運営やより効果的な広報活動を求められること、インフレによる資材、輸送費をはじめとしたあらゆる経費が嵩む中、当補助金の役割は大きく、また、競輪補助事業をもっと広める活動にも微力ながら注力をしていきたいと考えております。

- ① 4月20-21日 第58回 JBCF 東日本ロードクラシック群馬大会（群馬サイクルスポーツセンター）
- ② 4月27-28日 第58回 JBCF 西日本ロードクラシック播磨中央公園大会(播磨中央公園)
- ③ 6月30日 第58回 JBCF 西日本トラック(和歌山競輪場)
- ④ 7月20-21日 第55回 JBCF 東日本トラック(西武園競輪場)
- ⑤ 8月24-25日 第55回 JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ(松本市美鈴湖競技場)
- ⑥ 9月22日 第4回南魚沼クリテリウム（新潟県南魚沼市）
- ⑦ 9月23日 第58回 JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ(新潟県南魚沼市)
- ⑧ 10月26日 第4回 JBCF 石川クリテリウム(福島県石川町) ※中止
- ⑨ 10月27日 第22回 JBCF 石川ロードレース(福島県石川町) ※中止

5. 講習会

1月27日、2月3日、3月30日に「JCF 公認チーム・アテンダント講習会／アンチドーピング講習会」を開催しました。Zoom（ウェブ会議サービス）利用によるオンラインでの実施となり、受講者数は各回80名程度。3回の講習会を通じて合計で約240名のアテンダント登録者が生まれ、また、この開催ノウハウにより、今後、全国からの参加がしやすくなることから、自転車競技の普及に大いに寄与することができ、非常に有意義であったと考えております。

6. 年間アワード

JPT は最終戦が中止となったためシマノの協力を得て大阪市のシマノスクエアで開催。JPT 以外は最終戦の浦安クリテリウムで行いました。

7. 協賛

一昨年から加わったガチンコサイクル TV による J プロツアーへの賞金は継続。令和6年度のオフィシャルパートナーはシマノセールス株式会社、パナソニックサイクルテック株式会社、株式会社あさひ、一般社団法人自転車協会、株式会社パールイズミ、弱虫ペダル、ガチンコサイクル TV、株式会社オージーケーカブトの8社、サイクルアクティブプログラムとして、株式会社 NIPPO、マヴィックジャパン株式会社、井上ゴム工業株式会社、LAP CLIP（株式会社マトリックス）、J SPORTS、PR TIME、PUPURU（株式会社ブルインターナショナル）、POWER BAR（有限会社パワースポーツ）、LEOMO、メルセデスベンツジャパンの10社、合計18社から、ご協賛いただきました。

8. 広報

J SPORTS（株式会社ジェイ・スポーツ）、LAP CLIP（株式会社マトリックス）に広報活動の協力を頂きました。

J SPORTS 番組内にて、J プロツアーのレースリザルトを放映。日本のサイクルロードレースファンに対して、広く J プロツアーの映像を届けることができました。

LAP CLIP は本年も JPT 開催大会全戦において協力いただき、各クラスタのラップタイムや順位を速報として公開。参加者やファンにとっても、大会役員や運営サイドにとっても、リアルタイムの計測情報は、新たな観戦の魅力創出とともに、大変重要な情報となっています。

開催した J プロツアーレースをガチンコサイクル TV でライブ配信。より多くのファンに映像という形でレースの模様を伝えることができただけでなく、YouTube コメント欄や SNS におけるファン同士の活発なコミュニケーションのきっかけを作ることができました。ガチンコサイクル TV はレース以外にも J プロツアーチームや選手の PR の場としてイベントを開催するなど、YouTube 配信だけでなく、リアルの間でも選手とファンとの交流ができました。

昨年に引き続き YouTube チャンネルで J プロツアーのダイジェストを配信しました。

以上